

【商業・事務情報科】 2年次 【選択】科目「原価計算」授業のシラバス

1 概要

教科名	商業	科目名	原価計算	単位数(コマ数)	3(117)
科目の目標	1. 製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得させ、原価の概念について理解させる。 2. 原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。				
教科書(出版社)	原価計算新訂版(実教出版)	副教材(出版社)	学習と検定 反復式原価計算問題集全商 1級原価計算改訂版(実教出版) 平成31年度版全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級原価計算(とうほう)		

2 学習の方法

(1) 予習について

授業の前に教科書を熟読しておいてください。

(2) 授業について

毎時間授業に集中してください。疑問な点は遠慮無く質問してください。

電卓、教科書、問題集は必需品です。万が一忘れた場合は、朝のうちに教科担当の先生に申し出てください。

忘れ物は平常点として「関心・意欲・態度」の評価に関わりますので授業が始まる前に点検しておいてください。

この授業で使用するファイルは「プラスチックの黄色」です。

授業の理解度を知るために、確認テストを実施します。定期的にノートや問題集の提出を求めます。

(3) 復習について

授業の復習を怠ると全く面白くない授業になります。授業ノートの見直しや授業で解いた問題の解き直し、教科書例題の見直し等を、その日のうちに必ず行ってください。

〈学習アドバイス〉

とにかく復習あるのみ。復習を万全にして得意科目にしてください。また、文字、数字を丁寧に書くように心がけてください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、原価計算から得られる情報を活用する態度を身につけている。(授業に対する姿勢や提出物の提出状況を評価します。)
② 思考・判断・表現	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。(原価計算における計算方法や記帳の仕方を理論的に理解しているかを評価します。)
③ 技能	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、原価計算から得られる情報を的確に処理することができる。(原価計算によって得られた情報を利用できる能力があるかどうかを評価します。)
④ 知識・理解	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本的な知識を身につけている。(教科書に出てくる原価計算の知識を理解しているかを評価します。)

(2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する)

評価材料		定期考査・確認テスト		確認テスト	提出物	課題
観 点	割合					
① 関心・意欲・態度	10%	△	学年末に工業簿記の基本的な仕組みを理解しているかを確認するために「工業簿記のしくみ」を課題とし期日厳守で提出してもらいます。			◎
② 思考・判断・表現	30%	◎	製造業における原価計算の実際を、その概念や仕組みをふまえて考察し、的確に表現できるか。	○	○	
③ 技能	30%	◎	全商簿記実務検定1級レベル	○	○	
④ 知識・理解	30%	◎	全商簿記実務検定1級レベル	○	○	

〈担当者からのメッセージ〉

授業に集中してください。

家庭学習の習慣をつくりましょう。

【商業・事務情報科】 2年次 【選択】科目「原価計算」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記-製造業における簿記-	9	・経営活動と原価計算 ・原価の意味 ・原価要素の分類 ・簡単な例による原価計算 ・原価計算の目的 ・原価計算の手続き ・原価計算期間 ・工業簿記の種類 ・工業簿記の特色	①	物を作るために、どのくらいの費用がかかるか、その計算はどのように行うのかに関心を持ち、自分から進んでいるいろいろな物の原価を計算したり、問題演習に意欲的に取り組むことができる。	前期中間考查
5		12	・製造活動を記録するために必要な勘定 ・工業簿記の基本的な仕組み ・記帳手続きの例示			
6	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算と記帳 第5章 労務費の計算と記帳 第6章 経費の計算と記帳	9	・材料の分類、仕入、保管、消費とそれらの記帳 ・材料消費高の計算と予定価格法による場合の記帳 ・労務費の分類 ・賃金支払高の計算と記帳 ・賃金消費高の計算と記帳 ・賃金以外の労務費の計算と記帳	③ ②	材料費・労務費・経費の消費高の計算及び記帳に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、各種の計算表、仕訳、勘定記入等を的確に行うことができる。 原価の費目別計算について関心を持ち、自ら進んでまとめたり問題演習に取り組むことができる。	
7		12	・経費の分類および消費高の計算と記帳			前期期末考查
8	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	6	・個別原価計算の手続き ・原価計算表の記入方法 ・原価元帳と製造勘定の関係 ・製造間接費の配賦方法 ・製造間接費の予定配賦 ・仕損品・作業くすの処理 ・部門別計算の目的 ・原価部門の設定と勘定の設定 ・部門別個別原価計算の手続き ・部門費配分表の作成 ・部門費振替表の作成 ・製造部門費予定配賦表の作成 ・総合原価計算の特色と種類 ・単純総合原価計算 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算 ・単純総合原価計算表と記帳法 ・等級別総合原価計算 ・組別総合原価計算 ・工程別総合原価計算の手続きと記帳法 ・減損・仕損の処理 ・副産物・作業くすの処理	② ③ ④	なぜ製造間接費は予定配賦するのか、なぜ、部門別計算を行うのか、個別原価計算と総合原価計算はどう違うのか、等価係数とは何か、なぜ工程別計算を行うのか、総合原価計算における減損・仕損じなどはどのように処理するのかなどについて考え、適切に判断して学習を進めることができる。 原価の部門別計算と製品別計算に関する基本的な技術を身につけ、各種の計算表、仕訳、勘定記入等を的確に行うことができる。 原価の部門別計算と製品別計算に関する基本的な技術を理解できる。また、各種原価計算の方法の特徴について理解できる。	
9		9				
後期 10		15				後期中間考查
11		15	・製品の完成と販売 ・販売費及び一般管理費 ・決算の手続き ・財務諸表の作成 ・本社・工場間の取引	①	製品の完成時及び販売時の手続きや処理法、製造業の決算の特徴、さらに本社工場間の取引の記帳について関心を持ち、自ら進んでまとめたり、問題演習に取り組むことができる。	
12	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引	9	・原価管理と標準原価計算 ・標準原価計算の特色と手続き ・原価標準の設定 ・標準原価の計算 ・実際原価の計算 ・原価差異の計算と分析 ・パーシャルプラン ・記帳と分析の例示 ・損益計算書の作成	① ③	個別原価計算と総合原価計算の計算体系の違いをもとに、完成時の手続きや処理法について考えることができる。また、製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えたりすることができる。 標準原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、仕訳、勘定記入、損益計算書の作成等を的確に行うことができる。	
1	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2）	6	・利益計画と直接原価計算 ・直接原価計算の特色と手続き ・直接原価計算による損益計算書 ・CVP分析 ・BEP図表			全商簿記検定
2		9		③		
3	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算（その1） 直接原価計算（その2）	6		④ ①	直接原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、仕訳、勘定記入、損益計算書の作成等を的確に行うことができる。 直接原価計算に関する基本的な会計理論を理解することができる。 直接原価計算を利用した原価情報の活用について関心を持ち、自ら進んでまとめたり、問題演習に取り組むことができる。	
		計 117				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。